

京都文化研究班

研究プロジェクト代表

杉橋 隆夫

(立命館大学大学院文学研究科・教授)

平安貴族の行動と見聞 – 古典史料アーカイブ利用の試み –

京都文化研究班:「平安貴族の行動と見聞 – 古典史料アーカイブの試み –」プロジェクト

【事業推進担当者】
杉橋隆夫

【RA2】
花田卓司

【学内研究協力者】
佐古愛己・上島理恵子・田辺記子・滑川敦子・中川佳律・谷昇・吉岡直人・飯田将吾・駒井匠・河原梓水

【学外研究協力者】
マーチン・コルクット(米国プリンストン大学)・岡田英樹(米国プリンストン大学)・元木泰雄(京都大学)・西村隆(京都府立総合資料館)・山本崇((独法)奈良文化財研究所)・井上幸治(京都市歴史資料館)・横澤大典(龍谷大学)・佐伯智広(京都大学)・長村祥知(京都大学)

研究目的と特色

本プロジェクトは、2002～2006年度文部科学省21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」(立命館大学)のプロジェクト「日本古典における人間と環境 – 平安貴族とその周辺 –」を継承したものである。

本研究は、歴史学的考察を軸としながらも、地理学、情報分野等にかかるプロジェクトと連携して、平安中・後期の平安京とその周辺における貴族の移動や、京都への人の流入および京都から地方への流出について検討を加え、当該期貴族社会における空間移動の問題および都鄙間交流の意義を具体的に追究することを目指すとともに、伝統的な歴史研究の手法である現地調査・史料読解・分析等に加え、最新のGIS(地理情報システム)技術を導入した古典史料活用方途の開拓、ならびに歴史学研究における新たな可能性を提示することを試みる。

研究トピックス

1. 平安京およびその周辺における貴族の行動に関する研究
 - ・移動データベースの作成
 - ・移動経路の視覚化と軌跡構築プログラムの構築
2. GISを活用した平安京・中世京都の歴史地図の作製
 - ・「解説シート」の作成
 - ・GIS平安京・中世京都の歴史地図の作製
3. 『兵範記』の書誌学的研究とデジタル図書館の構築
 - ・『兵範記人名索引』増補改訂版への作業
 - ・『兵範記』刊本および校訂本データベースの完成と公開
 - ・京都学デジタル図書館の構築
4. 国内・国際シンポジウムの開催
 - ・シンポジウム『源氏物語』の読み方ー学際的視野からーの開催(2008年10月11日)
5. 海外共同研究機関とのネットワーク形成
 - ・米国プリンストン大学東洋学部

平安京およびその周辺における貴族の行動に関する研究

古記録にみえる貴族の移動データベースの作成

移動経路可視化のためのプログラム作成 平安後期古記録『兵範記』(平徳朝の日記:1181-94)における移動経路記録とGIS歴史地図化
(ID:10000～平安京内南北線、20000～平安京内東西線)
(吉田真澄開発ソフトによる作図)

GISを活用した平安京・中世京都の歴史地図の作製

院政期京都の地理情報データベース

解説シート(兩院内裏址)

GIS平安京歴史地図 (地形景観復元図上に土地利用図を表示)

現在の京都(航空写真)上に土地利用図を表示

『兵範記』の書誌学的研究とデジタル図書館の構築

『兵範記』刊本

『兵範記』浄書本

刊本の誤植・誤脱・錯簡・脱漏の箇所を修正。厳格な人名比定

保元3年(1158)年正月2日条「右大臣殿」にマウスポイントを当てると実名「藤原基実」を表示

同日条における「藤原基実」の複数呼称(右大臣殿・右府・傳殿・傳右大臣)を着色表示

小ポイントは割注を表示

【 】内は頭注・傍注を表示

兵範記輪読会編『兵範記人名索引』(原田文庫出版より2007年6月刊行)

『兵範記』刊本フルテキストデータベース